

アサヒビール株式会社

リフレッシュ休暇 / ナイスライフ休暇 / メモリアル休暇

心身を凧とリセットする「リフレッシュ休暇」

当社は社員のオン/オフのメリハリを大切に考える会社です。日本人は仕事は病気でもない限り休まず働く意識が高いため、社員が適切に休暇を取れるようにするには、堂々と休める大義名分を用意してあげることも必要です。

そこで当社は多種多様な休暇制度を設けました。法定の年次有給休暇(入社時は10日、5年目から最大20日)を中軸として、約20の休暇制度があります。中でも特徴的なのが「リフレッシュ休暇」と「ナイスライフ休暇」です。

「リフレッシュ休暇」は1989年、まとまった休暇をきちんと取って心身をリセットするために当社がいち早く導入した制度です。“連続6日以上”の長期休暇”を年度始めに申請して、計画的に利用できます。

休暇を取る社員が「前は〇〇休暇で、今回は〇〇休暇です」と言える大義名分があれば、同僚からの理解もスムーズに得られます。こうした心理面の効果も大きく、現在では6~7割の社員がこれらの休暇を利用しています。

社会貢献の社風が生きる「ナイスライフ休暇」

当社にはスポーツや音楽イベントなどへのメセナ活動の企業文化が根づいています。その社風を色濃く反映させた制度が、1992年から始めた「ナイスライフ休暇」です。これはボランティア活動や公共イベント支援などを行う社員に年間

12日の休暇を認める制度です。

これには個人申請と社内募集という2つの取得パターンがあります。

個人申請する「ナイスライフ休暇」の例では、イベントへの参加がよく見られます。たとえば障害をもつ子供達との宿泊活動、障害者スポーツ指導員や大会ボランティア、国体などのスポーツ大会の運営を中心にして、毎年15~30名がこの制度を利用しています。

また、社内募集による「ナイスライフ休暇」の例では、2011年の夏、東日本大震災のボランティア活動に約250名が参加しました。



震災ボランティアで活躍する社員

👉 ここに着目!! (部分とリンクしています)

- 導入に至るまでの背景
- 導入の目的
- 導入のプロセス
- 導入後の効果
- 今後の目標

多彩な休暇制度をそろえ、取得率を向上させる

このほかに人気があるのが1996年に導入した「メモリアル休暇」です。社員一人ひとりが年2日(事業所により年3日以上)の記念日休暇を取得できます。結婚記念日、家族の誕生日、学校の卒業式などによく利用されます。

当社ではこのように休暇を取りやすい環境作りに努めており、最近は休暇を積極的に活用していく社内意識が高まっています。これにともなう2010年には年間所定休日数を120日から123日へと増やしました。その結果、社員の実休日は2012年には134.4日となり、今年の間年休暇取得率も前年比で2%以上高まりました。今後とも人事部としては休暇の大切さを様々な形で伝えていくことに取り組んでまいります。

■ 2012年1月~12月の休暇取得者数

リフレッシュ休暇	1,818名
メモリアル休暇	1,599名
両方取得している	1,223名
少なくともどちらか一方取得している	2,194名

※途中退職者等を含む対象在籍者3,263名

■ その他の休暇制度

子育て休暇: 中学校就学前の子女1人当たり年間10日間、最大20日間の休暇が認められる制度(子が3歳までは有給扱い)

介護休暇: 介護が必要な対象者1人当たり年間5日間、最大10日間の休暇が認められる制度(有給扱い)

スキルアップ休暇制度: 資格取得のための通学、大学・大学院通学、語学向上のための留学・通学、ボランティア活動、配偶者の海外転勤に伴う同行による研鑽など、自らのスキルアップのために利用できる休職制度。

人事部 担当部長
杉中 宏樹さん



会社データ
【事業内容】ビール類シェア首位、総合酒類・飲料メーカー
【従業員数】3,183名(2013年6月末現在)
【年次有給休暇の取得率】58%
【年間休日数】123日
【URL】http://www.asahibeer.co.jp/

制度活用事例



人事部 主任
山添 綾さん
[リフレッシュ休暇]

「リフレッシュ休暇」で自分磨きを!

私は入社8年目ですが、「リフレッシュ休暇」を入社2年目から毎年フルに利用しています。

私にとって最高のリフレッシュは、仲のよい友達との海外・国内旅行です。また、まとまった日数の休暇が取れるので、故郷にいる両親との還暦記念旅行や祖父母の家や親戚への訪問といった家族イベントにも最適です。

社員の中には、たとえば資格試験に挑戦するため、試験の直前に1週間程度の「リフレッシュ休暇」を取って、最後に追い込みをかけて受験するといった使い方をする人もいて、「あなるほど、上手な利用法があるものだ」と感心したことがあります。

「リフレッシュ休暇」を活用して自分磨きをする社員の方が今後ますます増えることを願っています。